

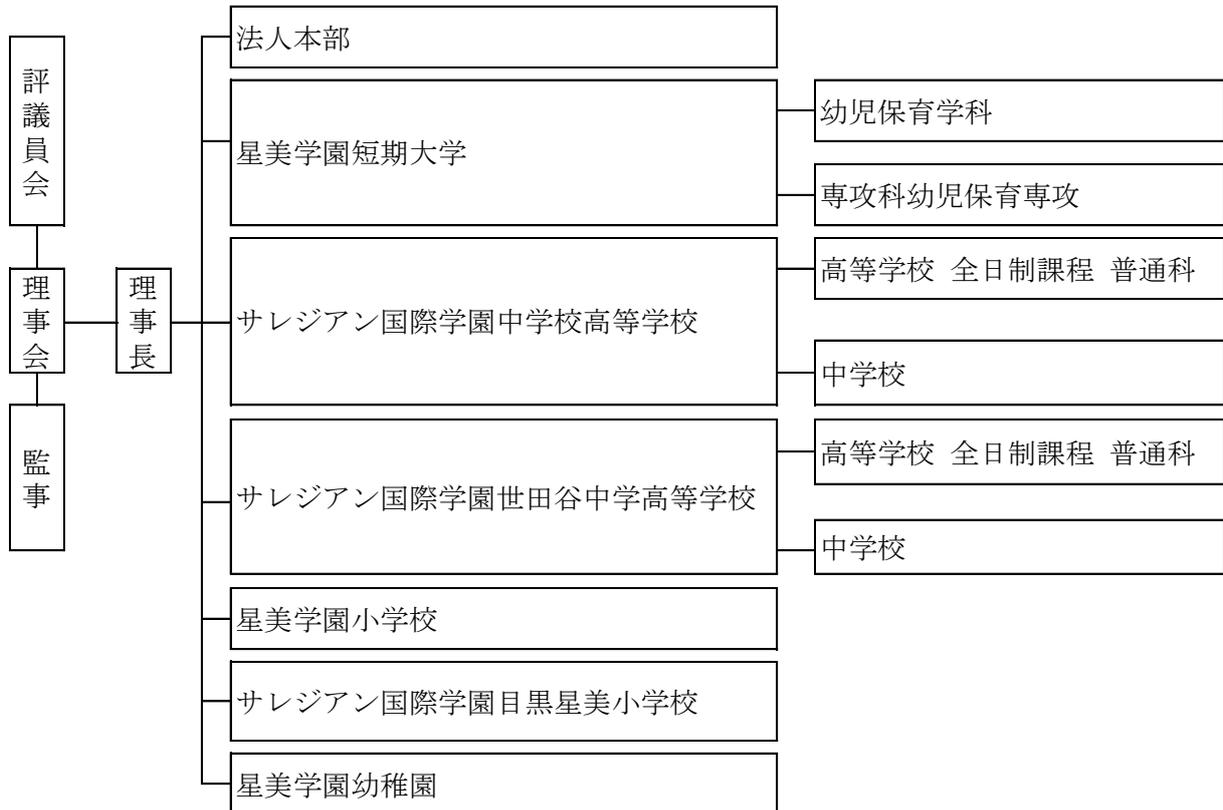
令和5年度事業報告書

I 法人の概要

1 建学の精神

学校法人星美学園は、我が国の教育基本法及び学校教育法に従って、扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ・ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」、すなわち、理性・宗教・慈愛に基づき、家族的教育環境の中で、「誠実な人間、良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでいる。

2 学園組織



3 所在地

校 名	所在地
法人本部	〒115-8524 東京都北区赤羽台4丁目2-14
星美学園短期大学	
サレジアン国際学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
サレジアン国際学園世田谷中学高等学校	〒157-0074 東京都世田谷区大蔵2丁目8-1
サレジアン国際学園目黒星美小学校	〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2丁目17-6

4 沿革

1929年12月	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月	東京三河島「星美学園」創設
1947年01月	星美学園小学校設置認可
1947年04月	星美学園中学校設置認可
1948年03月	星美学園高等学校設置認可
1951年03月	学校法人星美学園設立
1953年01月	星美学園幼稚園設置認可
1954年03月	学校法人星美学園，星美学園第二小学校設置認可
1955年03月	星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月	「学校法人目黒星美学園」として寄附行為認可 「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月	目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月	星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月	目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月	短期大学保育科新設
1967年04月	短期大学国文科新設
1969年05月	短期大学各科の名称を改称（家政学科，幼児教育学科，国文学科）
1971年07月	目黒星美学園中学高等学校体育館完成
1972年02月	目黒星美学園小学校体育館完成
1980年05月	星美学園中学・高校特別教室棟・体育館落成

1985年07月	星美学園プール・南グラウンド竣工
1991年05月	目黒星美学園中高講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し，人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中高6年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中高校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併
2018年04月	短期大学男女共学開始
2022年04月	星美学園中学校高等学校をサレジアン国際学園中学校高等学校に校名変更及び男女共学開始
2023年04月	目黒星美学園中学高等学校をサレジアン国際学園世田谷中学高等学校に校名変更及び男女共学開始，目黒星美学園小学校をサレジアン国際学園目黒星美小学校に校名変更

5 校種別入学者数，在籍者数の状況

令和5年5月1日現在

校種	学部等	入学者数	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	45	200	84
	専攻科幼児保育専攻	69	100	69
	小計	114	300	153
サレジアン国際学園高等学校	全日制 普通科	75	450	213
サレジアン国際学園中学校		162	450	327
サレジアン国際学園世田谷高等学校	全日制 普通科	注 ー	270	176
サレジアン国際学園世田谷中学校		147	270	285
星美学園小学校		110	720	585
サレジアン国際学園目黒星美小学校		101	720	624
星美学園幼稚園		52	240	192
学園合計		761	3,420	2,555

注：サレジアン国際学園世田谷高等学校は，サレジアン国際学園世田谷中学校の内部進学者のみ。

6 教職員の状況

令和5年5月1日現在

区分	学園長	学長・ 校長等	教頭・ 副学長	教員			小計	職員				小計	合計
				教諭	非常勤 講師	嘱託		事務 局長	事務部 長等	事務 員等	嘱託		
法人本部	1						1	1				1	2
星美学園短期大学		1	1	9	40		51		1	5	3	9	60
サレジアン国際学園 高等学校		1	1	23	7	1	33		1	10		11	44
サレジアン国際学園 世田谷高等学校		1	1	21	9		32		1	9		10	42
サレジアン国際学園 中学校		(1)	(1)	24	7	1	32		(1)	5	1	6	38
サレジアン国際学園 世田谷中学校		(1)	1	30	9		40		(1)	11		11	51
星美学園小学校		1	1	35	1	4	42		1	10		11	53
サレジアン国際学園 目黒星美小学校		1	1	43	4		49		1	7		8	57
星美学園幼稚園		1	1	14		2	18			2	1	3	21
合計	1	6	7	199	77	8	298	1	5	59	5	70	368

パートは，除く。派遣教員は，非常勤講師に含める。

7 役員・評議員の状況（令和5年5月1日現在）

(1) 役員の数及び実数

区 分	定 数	実 数
理 事	8名以上11名以内	10名（うち外部理事2人）
監 事	2名又は3名	2名（うち外部監事2人）

(2) 役員

役 職	氏 名	勤務形態	選任区分	摘 要
理事長	鈴木 裕子	常勤	学園長	学校法人星美学園学園長
理 事	阿部 健一	職員兼務理事	学長	星美学園短期大学学長
理 事	森下 愛弓	職員兼務理事	校長	サレジアン国際学園中学校高等学校校長
理 事	見城 澄枝	職員兼務理事	園長	星美学園幼稚園園長
理 事	小島 理恵	職員兼務理事	評議員	サレジアン国際学園目黒星美小学校校長
理 事	星野 和江	職員兼務理事	評議員	星美学園小学校校長
理 事	森下ワカヨ	職員兼務理事	学識経験者	サレジアン国際学園世田谷中学高等学校校長
理 事	青木 二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理 事	福岡 豊	職員兼務理事	学識経験者	法人事務局長
理 事	宮脇 道子	非常勤	学識経験者	外部理事（宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員）
監 事	最首二三夫	常勤	—	元日立オートモティブシステム(株)
監 事	赤木 純子	非常勤	—	宗教法人カトリック扶助者聖母会管区財務

(3) 責任免除・責任限定契約，保証契約・役員賠償責任保険契約の状況
契約なし。

(4) 評議員の数及び実数

区 分	定 数	実 数
職員評議員	18名以上23名以内	14名
非職員評議員		7名
計		21名

(5) 評議員

氏 名	職員・非職員 の別	選任区分	摘 要
宮脇 道子	非職員	宗教法人代表役員	宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員
鈴木 裕子	職員	学園長	学校法人星美学園学園長

阿部 健一	職員	学長	星美学園短期大学学長
森下 愛弓	職員	校長	サレジオン国際学園中学校高等学校校長
小島 理恵	職員	校長	サレジオン国際学園目黒星美小学校校長
星野 和江	職員	校長	星美学園小学校校長
福岡 豊	職員	学園の職員	法人事務局長
吉田登代子	職員	学園の職員	星美学園小学校校長補佐
江崎 節子	職員	学園の職員	星美学園幼稚園教頭
塚田 憲邦	職員	学園の職員	サレジオン国際学園世田谷中学高等学校事務 長
坂井佐奈栄	職員	学園の職員	サレジオン国際学園目黒星美小学校教諭
青木 二郎	非職員	評議員から選任され た理事以外の理事	弁護士
見城 澄枝	職員	評議員から選任され た理事以外の理事	星美学園幼稚園園長
宮脇 眞澄	非職員	学園の卒業者	扶助者聖マリア修道院院長
谷田部美佳	非職員	学園の卒業者	上智大学短期大学部英語科准教授
森下ワカヨ	職員	校長	サレジオン国際学園世田谷中学高等学校校長
飯田 和俊	非職員	学識経験者	三菱ケミカル(株)監査部マネージャー
栗林 勝彦	非職員	学識経験者	(株)aoyamaFUJI 代表
角田 誠	非職員	学識経験者	(株)角田誠事務所代表取締役
島元 美恵	職員	学識経験者	サレジオン国際学園世田谷中学高等学校教頭
小林 由加	職員	学識経験者	星美学園短期大学非常勤講師

II 事業の概要

1 部門別の諸活動報告（教育事業）

(1) 学校法人

学校法人は、設置する中学校及び高等学校の学校改革を推進し、令和4年4月1日から星美学園中学校高等学校がサレジアン国際学園中学校高等学校に、令和5年4月1日から目黒星美学園中学高等学校がサレジアン国際学園世田谷中学高等学校に校名変更と共学化に移行し第1歩を踏み出した。これらの計画は、概ね順調に進み、21世紀の社会に必要とされる人材を育成する魅力と活力のある学校づくりの目標を引き続き着実に進めることとする。また、目黒星美学園小学校は姉妹校の中学校との連携を引き続き図ることからサレジアン国際学園目黒星美小学校と校名を変更した。

(2) 法人本部

ア 赤羽キャンパス中学校高等学校校舎建設計画の推進

令和5年1月には、新校舎建設要綱をまとめ3社によるプロポーザル方式により請負会社を選定し、令和8年度中の新校舎完成に向けて着実に進めている。令和4年からの物価上昇、円安は、建設コストを押し上げていることから工期厳守、先行的な発注などコストを上げないよう請負会社と調整を続けている。

イ 就業規則の統一

星美学園と目黒星美学園の合併後、8年目で学校法人星美学園の就業規則が策定できた。

ウ 法人事務局の機能強化

事務の電子帳簿、インボイス、キャッシュレス等への対応は、社会の流れであり、引き続きこれに対応すべく関係者の協力を得て着実に進めることとする。

(3) 星美学園短期大学

ア 募集停止

令和6年1月20日の理事会において、令和7年度からの募集停止が決議され、速やかにそれを公表した。

イ 認証評価

6月に自己点検報告書を大学・短期大学基準協会に提出し、9月に訪問調査を受けた。その結果、一言の追加修正もなく、3月に「適格」の評価を得ることができた。

ウ 高大連携事業の推進

昨年同様、高大連携事業協定を結んでいる赤羽北桜高校及び品川エトワール女子高等学校において、本学専任教員が授業を行った。

エ ドン・ボスコの教育法に関する研修

浦田慎二郎神父による「ドン・ボスコの教育法」に関する職員研修を、例年通り、1月に行った。その中で「短大版：ドン・ボスコの教育法自己診断チェックリスト」を実施し、振り返りを行った。

オ ハラスメント防止研修の実施

3月に、学園の常勤監事を講師に招き、全教職員でハラスメント防止研修を実施した。

カ 就職状況

就職状況は、次のとおり。

本科	人数	%
こども園	2	5
施設	2	5
特別支援学校	1	2.5
一般企業	3	8
進学（専攻科）	30	77
進学（大学編入）	1	2.5
合計	39	100

専攻科	人数	%
幼稚園	10	15
保育所	30	46
こども園	2	3
公務員	4	6
施設	6	9
特別支援学校	5	8
一般企業	6	9
その他	1	2
進学（専門学校）	1	2
合計	65	100

(4) サレジアン国際学園中学校高等学校

ア 教育内容の改革を推し進め、コミュニケーション力・考える力・理数リテラシー・言語活用力を育成する。

(ア) 全教科でPBL型授業を実施・検証をし、その効果向上を目指ための研修会等も充実してきたため、生徒たちのプレゼン力等も向上してきた。

(イ) 基礎知識の定着を図るための朝学習を計画的に行えるためのシステムを構築することできた。

(ウ) 2コース制のそれぞれの特徴に従い、より魅力的なコースにするための計画実施を進めてきているが、まだ発展途上にあり、更なる研修を必要と

する。

- (エ) ラボの運営を円滑にすることが停滞し、それを中心とする個人研究に力を入れることができなかった。
- (オ) 英国ケンブリッジ大インターナショナル校認定を受け、そこから提供される教育資料等を活用し英語教育を充実させてきたが、2年を経て見直しをし、WACEへの移行を決定した。
- (カ) 高校1年生を対象とした海外留学を行い、現在14名の高2が留学中。また、その事前準備として、夏休みにオーストラリアスタディツアーを希望者に実施し、教育的効果を得た。しかし、事前指導がシステム化しておらず、特に中1は意識の薄い参加者がいた。そこで来年度は、中2以上の希望者に設定することとした。
- (キ) 中高一貫キャリア教育の具体案を作成し、実際に各学年に指導を実施できた。
- (ク) PBL型授業や個人研究、国際学園（英語）としての教育内容のレベルアップのために教員研修（個人・全体）を充実することができた。

イ 学校生活の充実を図る。

- (ア) 心の教育を重視し、卒業時にはサレジアン・シスターズの18歳のプロフィールに示されている姿に、生徒たちが近づくように指導した。実際にアンケートを高3卒業時に実施し、その結果、プロフィールに示されている姿に近づいているという認識を確認することができた。
- (イ) 女子学年と共学学年、それぞれ安心安全のもとに学校生活ができるためのアシステンツァの強化と生徒指導のあり方を研究実施し、学園文化の育成方法を探究できたが、引き続きの共学に関する研修が必要である。
- (ウ) 生徒会・委員会や行事、部活動においてPBL型授業の実践の場とし、生徒の自主性を重んじる。また、教員の意識改革をする。

以下の点においては大変進歩した。しかし、まだまだ反省点があるので、PDCAを回しながら更に発展させたい。

- ・学園祭を個人研究の発表の場に位置づけ開催することができた。
- ・部外の体育館を利用し生徒企画による体育祭を行うことができた。
- ・部外の会場を利用し生徒企画による合唱コンクールを行うことができた。

・クラブ活動の顧問として部外コーチを活用することにより、教員の仕事量の軽減、働き方改革の推進となった。

ウ 募集広報を推進する。

- (ア) 説明会出席者・入学者の数値目標の設定，実現化を目指し，おおかた達成することができた。
- (イ) 新たにパンフレットを改版し，より見やすいホームページの改訂をすることができた。
- (ウ) 塾・中学校・教会との連携を強化する。よりスマートな関係を築くよう努力することができた。
- (エ) 紙媒体やWEB媒体を通しての宣伝に力を入れ，大変効果があった。
- (オ) 新しい募集要項を作成し，入学試験問題作成等の準備を計画的に実施することができた。
- (カ) 星美小への広報活動を強化に努めたが，まだ改善の余地がある。
- (キ) 教職員全体への内部広報・意識改革への施策を実施することができたが，続けて実施していくことの重要性あり。

エ 学校改革の推進，HR教室不足のため，新校舎の建築に関わる準備を進める。

- (ア) 法人事務局と連携を密にし，中高の要望を反映させることができた。
- (イ) 令和6年度からの仮設校舎への移行に備え，3校舎（普通教室棟，特別教室棟，仮設校舎）で効果的で，安全な教育が継続できるよう準備することができた。仮設校舎をフランススコ棟と命名し，現在 中学3年生が効果的に使用している。
- (ウ) 部長会，職員会議で検討を深化させると共に，時期に応じてワーキンググループを活用することができ，しっかりと固まってきた。
- (エ) 進路実績（令和5年度）

<主な国公立大学（医療・看護）>

埼玉大学	2	理学部物理学科	理学部生体制御学科
------	---	---------	-----------

<主な私立大学（文系）> 早慶上理・Gマーチ

青山学院大学	1	経済	京都産業大学	3	文化
國學院大学	2	観光・文	淑徳大学	1	地域創生
上智大学	6	文・総合人間	成蹊大学	1	経済
成城大学	1	文芸	大正大学	1	文
大東文化大学	4	文・外国語 法・社会	文京学院大学	1	人間
文教大学	1	情報	明治大学	1	国際日本
目白大学	1	社会	立正大学	1	文

早稲田大学	2	教育・社会科学	立教大学	1	文
-------	---	---------	------	---	---

<私立大学 (理系)>

北里大学	2	理	工学院大学	1	工
芝浦工業大学	4	システム理工 工・物質化学			
中央大学	1	理工	東邦大学	1	理

<主な私立大学 (医療・看護)>

杏林大学	1	保健	東京女子医科大学	1	医学
日本薬科大学	1	薬	人間総合科学大学	1	保健医療
星薬科大学	1	薬	武蔵野大学	1	薬
ヤマザキ動物看護大学	1	動物看護	帝京高等看護学院	1	動物看護
東京女子医科大学看護	1	看護	東京都立広尾看護学校	1	看護

<主な私立大学 (芸術・体育)>

洗足学園音楽大学	2	音楽
----------	---	----

<主な私立大学 (女子大)>

跡見学園女子大学	4	文・観光・マネジメント	学習院女子大学	1	国際文化
京都女子大学	4	文	共立女子大学	4	文芸・ビジネス
駒沢女子大学	2	人間総合	十文字学園女子大学	1	人間総合
昭和女子大学	4	グローバル・食健康人間	女子栄養大学	1	栄養
白百合女子大学	2	人間総合	聖心女子大学	6	現代教養
津田塾大学	5	学芸	東京女子大学	1	現代教養
日本女子大学	5	人間・家政・国際・理・文	フェリス女学院大学	1	国際交流

<短期大学・専門学校>

星美学園短期大学	1	幼児保育	日本外国語専門学校	1	アジア・ヨーロッパ
服部栄養専門学校	1	栄養士	ビジョナリーアーツ	1	ペット
東京アニメ&声優&スポーツ専門学校				1	声優

<既卒生>

高知大学	1	医学部医学科	産業医科大学	1	医学部医学科
早稲田大学	1	先進理工学部生命	東京理科大学	1	先進工学部生命
明治大学	2	農学・工学	立命館大学	2	生命医・生物工

(5) サレジアン国際学園世田谷中学高等学校

ア 改革1年生を迎え、在校生とともに学校生活の充実を図る。

(ア) 先の見通せない時代をたくましく生きるため、5本の柱(考え続ける力、言語活用力、コミュニケーション力、数学・科学リテラシー、心の教育)を念頭に教育活動を行ってきました。その土台に心の教育、価値観の教育

があることを、研修会などをとおして教員間で深めてきた。自発的なボランティアを促し、活動が活性化されつつある。

- (イ) 女子学年と共学学年、それぞれ安心安全のもとに学校生活ができるためのアシステンツァ（プレゼンツァ）の強化と生徒指導のあり方を研究実施する。生徒指導部では、サレジアン・ロードという自己点検表を作成し、生徒たちが自分たちで、サレジアン生としての在り方、生活の仕方を評価できるようにした。
 - (ウ) いじめや情報リテラシーに反する行為には徹底した指導を行ってきた。とくに、情報リテラシーについてはことあるごとにどういう使い方をすべきかを考えさせる指導をしてきた。
 - (エ) 自転車通学が始まり、交通安全教育を自転車の使用という観点から実施した。
 - (オ) 生徒会・委員会や行事、部活動においてPBL型授業の実践の場とし、生徒の主体性を重んじるよう努力してきたが、教員側の意識改革が不十分である。
 - ・学園祭を研究発表の場に位置づけ開催するよう方向性を変えてきている。
 - ・八王子の体育館を利用し、生徒企画による体育祭を行うよう努めた。
 - ・野外活動を探究型のアクティブラーニングになるよう変更し、八ヶ岳で実施した。
 - ・クラブ活動の顧問として部外コーチを活用し、クラブの活性化を図った。
 - (カ) Blend を投入し、出欠席の簡素化、教員間、保護者との共有化を図った。8時25分教室で出欠を取る。Blend に反映。保護者との連絡を密にしている。
 - (キ) 休み時間の間食を認めるとともに、食育教育を行い、とくにアレルギーのある生徒への配慮を生徒たちに呼びかけた。
 - (ク) フィリピンボランティアなどは、実施の要望があるが、まだ再開できていない。
- イ 共学化，2コース制開始にあたり，授業における教員の質を上げる。
- (ア) 共学化，2コース制，スタートの年にあたって，現行カリキュラムの検証と改善を行い，本科クラス・インターナショナルクラスのカリキュラムの検討を進めた。

(イ) 教育内容の充実につとめた。各教科での PBL 型授業の定着、充実をはかった。教員間の公開授業を実施した。

(ウ) VCP, ゼミ・SAP を実施した。

VCP (ボランティア・コミュニケーション・プログラム) では、1 年生がソーシャルチェンジ (身近な社会課題を発見し、解決法を考え、社会に発信する) を、2～5 年生がコーポレートアクセス (実在する企業へのインターンを体験し、働くことの意義を探求する) を、実施した。

SAP (サレジアン・アカデミック・プログラム) では、1 年生のインターナショナルクラスの生徒が、オーストラリアの兄弟校 (ナグルカレッジ) の生徒と手紙をやり取りするところから交流を始めた。

ゼミ (本科生の探究学習) では、9 つのゼミを 2 年生から始めるにあたって、準備をし、志望理由書などを作成した。

(エ) 「すらら」というソフトを使っての朝学習を 1 年生が実施した。生徒が積極的に自学習に取り入れ、「すららカップ」で、学校として全国 1 位になった。

(オ) サイエンスラボの有効活用をはじめた。

(カ) 中高一貫キャリア教育の具体案を作成しはじめた。

・Dual Diploma (二つの卒業資格) のため、オーストラリアの兄弟校サンベリーサレジアンカレッジを本校の教員が訪問し、具体的な歩みを進めようとしている。

・留学体験をふくめたキャリア教育の策定はまだ、具体的にはなっていない。

(キ) 教員の質を上げるための、研修会への参加などを奨励した。生徒のサイエンスプレゼンの機会も増えた。

(ク) ICT 教育を推進するため、推進委員がチャット 4.0 を使用し始めて研究している。

(ケ) インターナショナルティーチャーを数多く迎える中で、日本人教員の英会話力を高めるため、英会話の時間を設け、インターナショナルティーチャーとの交流も深められた。

ウ 募集広報

(ア) 2022 年度入試で回復した受験者数を上回るよう広報活動に力を入れ、実際に 1.5 倍に増えた。

(イ) 小学校との内部進学についての話し合いを進めた。

(ウ) 学則定員を増やす方法を考えたが、うまく進展しなかった。

(エ) 男子生徒の入学者を増やすための手立てを講じ、昨年より10名ほど増えた。

エ 主な大学合格実績

国公立 お茶の水：1名 東京都市大：1名

早慶上智：9名，GMARCH：7名

女子大（聖心・東京女子・日本女子など）：6名

中堅私立大学（日大・専修・成蹊など）：9名

理系大（薬学・看護・農学部など）：7名

(6) 星美学園小学校

ア 教育重点目標の充実

(ア) 「進んで善を選び取れる児童の育成」を目指し、担任・専科と協力しながら指導した。子どもの情報共有を積極的に行い、必要なら全教員で共通理解しながら、児童の指導を行った。

(イ) 建学の精神に沿った教育が実践できているかどうか学期ごとに自己評価を行い振り返る中で、次の学期の目標を持って指導ができた。

(ウ) アッシステンツァの実践を通して「当たり前」のことが実行できるように全教員で指導を行って来たが、児童の定着には個人差がある。

(エ) 「星美のかしこい子」

星美のかしこい子の中から、㊦「神様と人の前に正直な子」を重点的に指導した。悪い行いをした時に、素直に認められない児童もいるので、次年度も引き続き指導していく。

イ 学習指導要領実施に向けてのカリキュラムの実施

(ア) 各学年、カリキュラムの内容は実施できた。6年生は担任が国語と算数で教科を分けて指導をしたため、授業時間数に偏りができた。今後、担任同士が授業を入れ替えての教科担任制は検討が必要。

(イ) 宗教科道徳「からし種」も4年目が終わり、定着した。月のみ言葉の深めや各クラスの実態に応じて、児童にキリスト教的な価値観で生活する指導を専科教員も含め取り組むことができた。

(ウ) 英語の学習では、iPadも利用し、高学年でSpeech /Show & Tellを強化した。2年生以上は、ロイロノートを使用しての音声強化を図ると共に、4年生以上は1時間の授業を2名の教員で担当し、英語力強化を図った。希望者ではあるが、5年生で英検合格5級はほぼ100%、6年生で4級が

70%程度。今後、更に力をつけて行く指導を心がける。

ウ ICT教育の充実

(ア) iPad は2年生から5年生まで個人で持ち、意見交換や意見の発表（プレゼンテーション）、英語の発音の確認などで効果的に使用できた。

(イ) iPad を使い、個に応じた算数の習熟度や英語の単語力などを図るアプリ（Monoxer）の体験版を2年生以上で体験し、保護者の声も聞き、学習効果が上がったので次年度導入することに決定した。

エ 教員研修

(ア) 全教員に建学の精神を浸透させるために、職員会議前には10分間の宗教研修を行い、宗教の理解を深める機会を持った。教員の希望者が参加した聖書マラソンでは旧約聖書を読み深め、分かち合う中で良い学びの時間が持てた。

(イ) 研修テーマを「自分の考えをしっかりと持ち、伝え合う授業づくり」とし、自分の考えを他者へ発信する「伝え合い」を通して、さらに自分の考えをよりよいものへとしていく主体的な授業づくりを研究し、全教員が1回以上研究授業を行った。更に全校研修を年間3回（6年図工、2年国語、4年算数）実施し、全教員が参観し、研修テーマを深める研究を行った。

(ウ) 2年生の全校研修（国語）では、授業づくりを学び合うため、1単元の指導案を全教員で研究、作成した上で授業を参観した。

(エ) 夏休みのSDB研修では、田村神父様を講師として招き、ドン・ボスコの予防教育法を学ぶ機会を持った。

(オ) 外部の研修参加を推奨し、研修記録を残していったが、研修の参加状況には個人差がある。参加した教員は、研修で得たものを児童の指導に活かそうとしていた。

オ 生活指導

(ア) カトリック・ミッション・スクールということを常に意識し、宗教教育を土台とした人間形成を図る指導を全教員で心がけて実施した。残念ながら登下校についてのクレームを何件かいただき、その都度、指導を行った。

(イ) 「どの児童も星美の子」という意識を全教員が持ち、共通理解をしながら当たり前のように一致して指導を心がけた。

(ウ) 校舎内に入ったら私語を慎むことを年間を通して指導して来たが、継続指導が必要。

(エ) 年6回、いじめ調査を実施し、児童の悩みを把握した。残念ながら2年

生の女兒1名がいじめられたことを理由にして転校した。その他は、学校全体としては、大きな問題もなく穏やかに過ごすことができた。

カ 施設・環境の充実

(ア) 予定されていた整備については、すでに実施済。

キ 魅力ある学校作り

(ア) サレジアン・カラーやドン・ボスコの予防教育法を意識してアシステンツァに心がけた。休み時間も児童と共に外遊びを行う教員が多い。

(イ) 英語教育に力を入れ、1年生から英語を週2時間にし、これから必要とされる英語力の研究をした。校内に英語での掲示を増やしたり、日頃から英語に触れる機会を多くした。

(ウ) 宿泊学習、総合的な学習、生活科などで体験活動を重視し、体験前後の学習も充実させた。

(エ) 司書教諭が毎月発行する「図書だより」では、1年をかけて持続可能な開発目標(SDGs)を掲載した。児童に関心を持たせ、調べ活動などを通して、世界がおかれている状況を理解し、自分ができることを主体的に取り組む児童を育てる工夫をした。

ク 入試広報

(ア) 園児向けの動画「せいびのおへや」で、行事だけでなく日常の生活の様子なども配信した。チャンネル登録者数も600を超え、受験志望者には概ね好評だった。(令和5年度14回配信)

(イ) 依頼のあった幼児教室(3か所)には直接伺い、少人数の中で本校を知っていただく説明会を行った。

(ウ) 星美学園幼稚園から40名もの入学者があった。1, 2年生と年中・年長園児と交流する機会を持ち、楽しそうに活動ができた。

ケ 学校生活の安全確保

(ア) 1年生父母による下校立哨指導や地区別集会や一斉下校を通して、登下校の安全を図った。

(イ) 赤羽警察のスクールサポーターが1年生の下校時刻に合わせ、巡回してくださっていた。また、度々学校にも顔を出してくださった。

(ウ) 赤羽警察の方にご来校いただき、高学年と低学年で内容を変え、安全指導を行った。

(7) サレジアン国際学園目黒星美小学校

ア 心の教育

- (ア) 令和5年度からの校名変更に伴い、「国際学園」としての保護者の期待も高まってきた。しかしながら、本校の教育の根幹をなすものは「心の教育」であり、「品性を備えた明るく誠実な児童の育成」に努める教育方針に変わりはないことを、在校生保護者のほか、学校説明会でも明言してきた。その教育法は「予防教育法」であり、3本柱である「理性」「宗教」「慈愛」を実践しながら、子どもたちと共にいること（アシステンツァ）を大事にしながら日々の教育活動を行った。
- (イ) サレジアン・シスターズの姉妹校共通の教育目標「18歳のプロフィール」については、年に一度だけの振り返りであったため、教員への浸透は今一つであった。12月に実施した2, 4, 6年生のアンケートから、「神様に愛されているとはあまり感じられない」と答えた児童が数名いた。改めて教員との関わりについても課題として挙げていく。
- (ウ) 一人一人との関わりを通してその成長をサポートするため、教員間で児童についての情報交換を密にし、全教職員で全児童を見守り指導する。これについては、しっかりと行うことができた。

イ 国際教育

- (ア) 心の教育と並行して国際的なグローバルな視野※を持った児童を育成していく。(※グローバルな視野とは、1.自分が世界とつながっていることを実感できること 2.言語（日本語・英語）を使って、様々な人とコミュニケーションが取れること 3.多様性を受け入れ、認める心を持っていることを指す)この点については、令和5年度はイタリーウィークを実施し、創立者の国イタリアに関心を持つことができた。
- (イ) 具体的な方法として、以下の3観点を実施する。
- a 日常生活の中で英語に触れる
- 校内に英語表記を増やした。図書館に英語のコーナーを設置した。毎朝、スマイルオンラインを利用して10分間の英語学習を行った。また、希望者には家庭でできるオンライン英会話レッスンを提供した。家族・教職員も参加し、350名ほどがそれぞれレッスンを受けた。
- b 英語を使った活動へ挑戦する
- ①5年生…英語の授業内でオーストラリア セントパイアス小学校とのオンライン交流を行った。
- ②6年生…Tokyo Global Gatewayで、一日英語研修を行った。
- ③希望者は、英語の試験（GTEC）を受けることができた。

c 様々な国の人、外国語、文化に触れる

イタリーウィークを設け、イタリアの文化や言語に触れ、朝と帰りの挨拶をイタリア語で行う一週間を過ごした。

ウ 共に学び合う授業

- (ア) 共に学び合う授業を成立させるため、自分の考えを伝えたり、人の話をしっかりと聞いたり、考えたりする時間を各教員が意識して取り入れた。
- (イ) 教育の精神が生きる場として大事にしている合宿を、可能な限りコロナ以前の形に戻した。子ども達と教員との信頼関係の構築はもとより、子ども同士が学び合える体験ができるようそれぞれの合宿で計画立案し、実施した。
- (ウ) 令和3年度、教育課程委員会の推進のもと、合宿を中心としたカリキュラム編成を行った。令和5年度も、これに基づき教科と結びついた合宿、横断型の学習を展開する予定であったが、あまり、意識されていなかった。

エ ICTの活用

- (ア) 令和6年度4月より、3年生以上は個人持ちのiPadを家庭学習でも使用できるようにするため、試験的に3年生の持ち帰りを実施した。
- (イ) 中学への円滑な移行のため、5・6年生は一人一台のパソコンを用いて学習し、Word, Excel, パワーポイントの操作を学んだ。高学年の学習に向けて、ロイロノートの基本操作は1年生で、2年生からはタイピングを行った。3年生ではタイピングをしっかりと身につけると共にプログラミングを学んだ。4年生でWordの基本操作を身につけ、スクラッチでプログラミングの基本操作を身につけられるよう進めた。
- (ウ) 情報の授業以外の教科でも、iPadを有効に活用してきた。

オ 教員研修・資質の向上

- (ア) 今年度は、マリア・マザレロについてより深く学ぶ機会をもつ予定であったが、実践としては焦点を当てた学びはできなかった。
- (イ) 新任研修を学年主任、教科主任を中心に行った。また、東初協の教科部会の運営委員（国語、算数、英語）を務める教員に鼓舞されながら教員全体の授業力アップを目指せるよう努めた。
- (ウ) 創立者の精神を深め、サレジアンカラーを意識して教育に当たるため、毎月サレジアンカラーの一項目を目標として掲げ、週の初めの終礼では祈りとして全員で唱えた。
- (エ) 児童への英語教育と共に、教員の英語力も向上できるよう、オンライン

英会話レッスンの機会を設け、希望者が参加した。費用については、後援会からの支援を受けた。

カ 行事について

- (ア) 合宿については、各学年コロナ禍以前の形に戻して実施した。
- (イ) 音楽会については、保護者の鑑賞も予定していたが、インフルエンザの流行により、やむなく保護者無しで児童のみの音楽会を行った。

キ いじめ及び不登校児への対応、体罰防止について

- (ア) いじめについて
 - a 本校の「いじめ防止基本方針」を見直し、より本校の現状に即したものに改訂版を仕上げる予定であったが、未完成のまま終わった。(令和6年度に改訂版完成予定)
 - b 「いじめ」防止のため、各教員は愛情をもってより積極的に子ども達とかかわり、子どもの悩み等を早期に発見し、対応できるよう努めた。
- (イ) 不登校児への対応について

委員会で作成するマニュアルに沿って、各々の児童に対応できるよう慎重に進めた。マニュアルは未完成であるが、児童との関わりによって、保健室登校を続ける児童はおらず、全員、クラスに戻ることができた。(マニュアルは作成中)

- (ウ) 体罰について
 - a 教職員に徹底するため、体罰防止については定期的に話をしたり声をかけたりし、児童指導については複数で対応してきた。
 - b 体罰行為があった場合の対応マニュアルを新たに作成する予定であったが、未完成である。

以上の(ア)(イ)(ウ)については、対策委員会でマニュアルを作成し、推進する予定であったが、頓挫してしまい、令和6年度に申し送りとなる。

ク 入試広報活動

- (ア) 学校をより多くの方に知っていただけるよう、リニューアルしたホームページを有効活用した。
- (イ) これまで実施してきた学校説明会と案内会を、すべて「学校説明会」とし、全6回(就学入試説明会を含む)実施した。また、校外での説明会にも積極的に参加した。
- (ウ) 目黒サレジオ幼稚園との連携を考え、小学校教員による幼稚園保護者への講演会(昨年度に引き続き2回目)を実施した。好評であった。

ケ 働き方改革

(ア) 時程について

授業時間については、一コマは40分とする。教員については、これまで同様7時45分を出勤時刻とするが、退勤は16時30分とし、勤務時間内で各々休憩時間が取れるよう、3階の一室（モルネーゼ）または職員室の一角を休憩スペースとした。

(イ) 仕事の軽減について

事務職員の朝礼前の煩雑さを解消するため、「スクリレ」を欠席・遅刻等の連絡手段としている。また、購買部での物品購入についても、事前に購入の注文を提出するようにした。

(ウ) ペーパーレス化

終礼での連絡事項や職員会等、可能な限りペーパーレスとし、ロイロノートやスプレッドシートなどを利用した。

(エ) 休日に入試広報関係での出勤、合宿の实地踏査が入った場合、また、週番での時間外労働については、日当や振替時間を取るなどの措置をとった。

(オ) 可能な限り、児童が登校しない土曜日を在宅勤務とし、研修や健康維持のための時間として有効に使えるようにした。

コ 学校内外での安全

(ア) 一斉メール配信システムとして、令和5年度より「ミマモルメ」を導入した。配信の他、希望者には登下校メールサービスも受けられるようにした。

(イ) 学校危機管理マニュアルの検証・見直しを随時行い、児童の安全に努めた。また、登下校時の保護者の見守り隊を依頼し、多くの保護者の協力を得て安全確保ができた。

(8) 星美学園幼稚園

ア 令和5年度教育プロジェクトの成果と反省

教育重点目標「こころを開いて喜んで生活する子ども」を育てる。

年間を通して日々子どもたちは、生活や遊びを通して神様、先生、友だちとの信頼関係を築いてきた。自分らしさを発揮しながら、自分のやりたい遊びに没頭したり、友だちと協同しながら遊びを進めたりしながら充実感を味わっているようであった。

全学年集団での生活や遊びを通して、友達からの刺激を受け、思考力や創造力を身に着ける姿が見られた。年中、年長はグループでの遊びやゲームに

取り組み、他者との違いを受け入れ合う大切さを感じているようであった。また年長組は「こどもの哲学対話」を通して、深い学びができたと感じている。

保護者に対しては、教育の内容や成果を降園時やクラスだよりを通して丁寧に伝えられたこともよかったのではないかと思われるが、何よりも子どもたちが生き生きと園生活を送ることで、保護者の満足感もあったのではないかと思われる。また、保護者のカトリック教育への理解が深まるよう年2回教育講話を実施した。

イ 教職員の研修

子どもの遊びの環境づくりを通して、次の日につながる保育をするための記録に重点を置いて研修を積み重ねてきた。記録の取り方が変化したことにより、遊びや子どもの見方が変わり、個々の興味関心を小グループの遊びや学級活動の中でどのように位置づけるか保育者自身が意識するようになっていく。今年度は特に「個と学級の繋がり」をテーマに記録から読み取った子どもの姿をどのように遊びや活動につなげるかと共に、保育者の願いや意図にも着目して、気付きや難しさなどを共有しながら外部講師からの助言を頂きながら研修を深めている。

また保育の専門性、特に特別支援の必要なお子さんへの理解や対応についても夏期休暇中に研修を受け、実践につなげられるようにした。

ウ 保護者との連携強化

降園の際、日々の出来事を伝えたり、保護者の相談を受けたりしながら、子どもの育ちを保護者と共に考えてきた。また必要な情報を発信し、家庭の保育力を高めるよう努めてきた。

学年やクラスでの活動は、学年だよりやクラスだよりで丁寧に伝えることで、日々の教育内容を理解して頂けるよう配慮してきた。

毎日預かり保育を利用している家庭とクラス担任が直接話す機会が少なく、連絡帳を介してのやり取りになっていることが課題となっていたので、必要な場合は、保護者との面談を提案するなどしてきた。

エ 働く保護者への支援・預かり保育の拡充

早朝8:00からの受け入れ、保育後は18:00までの預かり保育を実施している。長期休暇中の預かり保育も実施しており、保護者からは好評を得ているが、職員への負担が増している。

オ 広報の充実

未就園児行事「星の子会」を実施し、親子で園に来て頂き遊びを通して園の教育方針を知って頂けるようにしてきた。

見学説明会においては、一日5組で実施し、普段の保育の様子を見て頂いたり、園内で遊んだりして園の雰囲気や教育活動を理解して頂けるようにしてきた。

駐車場の完備により、来園しやすくなったとの声を頂いている。

カ 他校種との情報交換及び連携

(ア) 短期大学…見学実習、教育実習の受け入れをした

(イ) 中学校高等学校…職場体験の生徒の受け入れをした。

(ウ) 小学校…内部小学校就学40名（74名中）令和4年度よりも10名増加。

キ 働き方改革

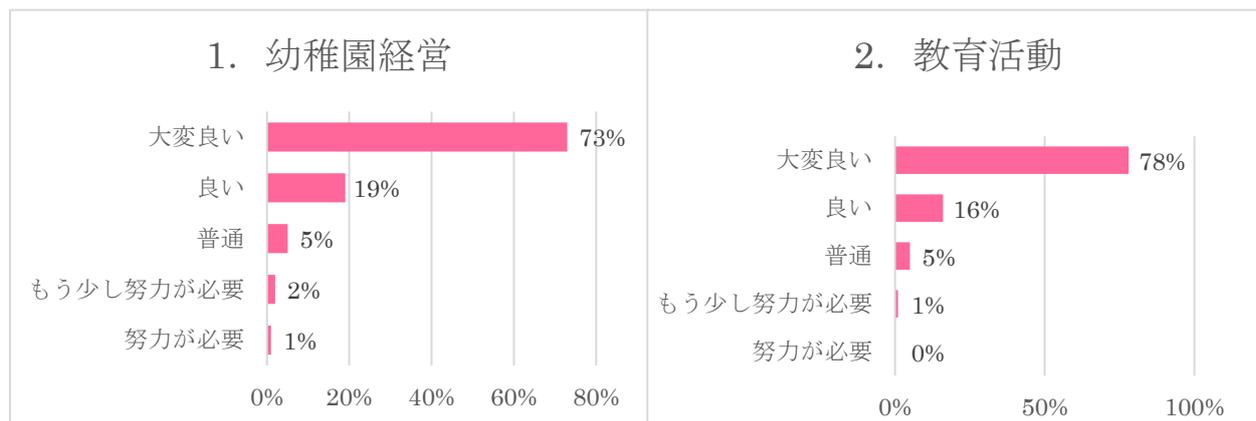
定時退勤が習慣化されている。クラスだよりの作成や日々の子どもの記録等時間がかかる仕事を時間内にできるよう、保育後の仕事（片付けや掃除、翌日の準備等）を効率よくできるよう配慮した。勤務日の土曜日を、クラスだよりの個人記録、保育の計画に充てられるよう在宅勤務を実施した。

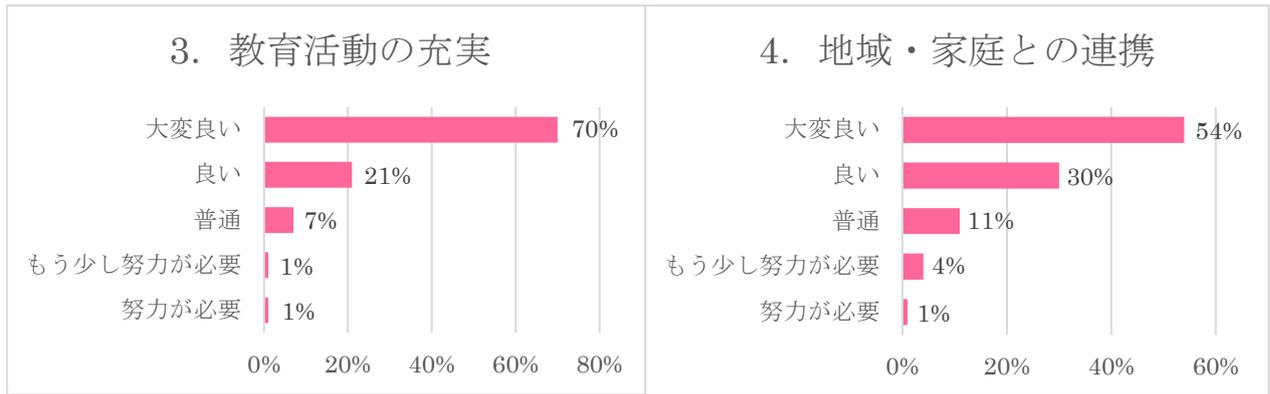
ク 学校評価（保護者アンケート）

保護者に園の経営、教育等のアンケートを実施し、次年度に向けての取り組みを保護者に伝えた。

実施日：令和6年2月

対象：全園児保護者





【来年度に向けての取り組み】

- * 教育内容については、年度ごとに重点目標を示し、それに向け保育の計画、実践、評価、改善のサイクルを継続的に行い、より良い保育を心がけた。これについては、保護者からも高い評価を頂き、次年度も引き続き行う。
- * 園の運営については、各家庭でのニーズの違いを強く感じている。幼稚園としては、保護者の利便性を考慮しつつも、子どもの安全と心身の成長を第一に豊かな保育をしてきたいと考えている。
- * 家庭との連携においては、保護者と子どもの成長について話がしやすい環境を整える必要性を感じている。面談期間中だけではなく、降園時等話しやすい環境を整えていく。
- * 中学校高等学校の建築に伴い、保護者からはグラウンド等、場の制約があった事への意見があった。
- * 保護者からのコメントについて個々に丁寧な説明が必要だと感じることもあったので、園長をはじめ運営にかかわる職員と保護者が直接話し合える場を整えていく。

2 施設設備等の主要事業

令和5年度の主要事業は、概ね計画どおり実施した。

(1) 法人本部

1	サレジアン国際学園中学校高等学校校舎新築CM業務
2	研修棟（司祭館）改修工事
3	施設棟改修
4	クラブハウスの改修工事
5	大プール各所修繕工事

(2) 星美学園短期大学

1	大講義室トイレ改修工事
2	303教室マルチメディア周辺機器プロジェクター他

(3) サレジアン国際学園中学校高等学校

1	ネイティブ講師の派遣
2	学校改革における教育監修
3	特別教室棟特別教室エアコン更新
4	仮設校舎用什器
5	教育用機材（ロボット充電保管庫 他）
6	特別教室棟窓飛散防止工事他

(4) サレジアン国際学園世田谷中学高等学校

1	フューチャールームの設置
2	生徒用パソコンの更新
3	体育館の空調設置
4	教務改革における教育監修顧問
5	生徒更衣室の設置
6	電話交換機の更新
7	クラブ部室の改修
8	看板等の付替え
9	理科科教室の改修
10	ラウラ講堂視聴覚機材の更新
11	生徒用机・椅子の購入
12	教室（2階）のロッカー撤去

13	生徒用ロッカーの購入
14	女子トイレの改修（ウォシュレット化）
15	ネイティブ英語講師の派遣

(5) 星美学園小学校

1	校舎屋上漏水防止工事及び全塗装工事他
2	多目的ホール設備デジタル化更新工事

(6) サレジオ国際学園目黒星美小学校

1	変電所各種トランス等の更新
2	外壁大規模改修（第3期）
3	棚用扉設置（低学年教室）
4	ノートパソコン15台
5	教室及びグラウンド側窓枠の補修整備
6	ポンプ交換

(7) 星美学園幼稚園

1	GHP機器（空調）更新 他
2	屋上等防水保護塗替修繕

Ⅲ 財務の状況

1 資金収支計算書

(収入の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 違
学生生徒等納付金収入	1,727,363	1,708,668	18,695
手数料収入	33,563	41,730	△ 8,167
寄付金収入	68,978	85,435	△ 16,457
補助金収入	941,269	1,062,761	△ 121,492
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	9,040	21,023	△ 11,983
受取利息・配当金収入	8,060	8,989	△ 929
雑収入	89,119	77,494	11,625
借入金等収入	0	500	△ 500
前受金収入	218,165	260,028	△ 41,863
その他の収入	1,116,811	1,129,891	△ 13,080
資金収入調整勘定	△ 310,345	△ 323,660	13,316
前年度繰越支払資金	1,202,160	1,202,160	
収入の部合計	5,104,183	5,275,019	△ 170,836

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差 違
人件費支出	2,516,937	2,216,010	300,927
教育研究経費支出	858,480	695,274	163,206
管理経費支出	310,680	221,205	89,475
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	1,760	250	1,510
施設関係支出	807,860	662,733	145,127
設備関係支出	272,280	133,952	138,328
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	46,972	78,370	△ 31,398
[予備費]	0		0
	62,500		62,500
資金支出調整勘定	△ 43,509	△ 73,400	29,891
翌年度繰越支払資金	270,223	1,340,625	△ 1,070,402
支出の部合計	5,104,183	5,275,019	△ 170,836

概 要

資金収支における収入面では、主としてサレジアン国際学園中学校の入学者が増えて、学納金、補助金収入も増えたが、中学校高等学校の教育改革関連の支出を賄いきれず、特定資産から10億円を取崩して補填を実施した。

2 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		予 算	決 算	差 違
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,727,363	1,708,668	18,695
	手数料	33,563	41,730	△ 8,167
	寄付金	35,986	44,715	△ 8,729
	経常費等補助金	923,885	1,014,527	△ 90,642
	付随事業収入	7,440	16,371	△ 8,931
	雑収入	89,119	77,501	11,618
	教育活動収入計	2,817,355	2,903,511	△ 86,155
	人件費	2,516,937	2,202,422	314,515
	教育研究経費	1,447,480	1,218,838	228,642
	管理経費	332,980	242,981	89,999
	徴収不能額等	214	214	0
	教育活動支出計	4,297,611	3,664,455	633,156
	教育活動収支差額	△ 1,480,255	△ 760,944	△ 719,311
教育活動収支外収支	受取利息・配当金	8,060	8,989	△ 929
	その他の教育活動外収入	3,600	3,600	0
	教育活動外収入計	11,660	12,589	△ 929
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	11,660	12,589	△ 929
	経常収支差額	△ 1,468,595	△ 748,355	△ 720,241
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	50,376	89,535	△ 39,159
	特別収入計	50,376	89,535	△ 39,159
	資産処分差額	0	4,042	△ 4,042
	その他の特別支出	0	29	△ 29
	特別支出計	0	4,071	△ 4,071
	特別収支差額	50,376	85,465	△ 35,089
[予備費]	(214)		62,286	
基本金組入前当年度収支差額	△ 1,480,506	△ 662,890	△ 817,616	
基本金組入額合計	△ 650,672	△ 409,711	△ 240,961	
当年度収支差額	△ 2,131,177	△ 1,072,601	△ 1,058,577	
前年度繰越収支差額	3,252,757	3,252,757	0	
基本金取崩額	0	2,066	△ 2,066	
翌年度繰越収支差額	1,121,579	2,182,222	△ 1,060,643	
(参考)				
事業活動収入計	2,879,391	3,005,636	△ 126,244	
事業活動支出計	4,359,897	3,668,526	691,371	

概 要

事業活動収支における収入面では、雑収入を除く主な収入源である教育活動収入額は対前年度約2億450万円増額となった。一方、支出面では、中学校のクラス数の増加に伴う教員（派遣ネイティブ教員を含む。）の増員その他の費用が必要になり、対前年度約3億円の支出超過となった。

基本金組入前当年度収支差額は、△6億6,289万円となり、基本金へ4億97万円組入れた結果、当年度収支差額は、△10億7,260万円となった。

3 貸借対照表

資産の部

(単位：千円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	27,081,227	27,897,813	△ 816,586
	有形固定資産	10,482,920	10,234,305	248,615
	特定資産	16,474,029	17,537,616	△ 1,063,588
	その他の固定資産	124,278	125,892	△ 1,614
	流動資産	1,446,778	1,285,119	161,658
	資産の部合計	28,528,005	29,182,932	△ 654,928

負債の部、純資産の部

(単位：千円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	150,707	156,146	△ 5,439
	流動負債	586,958	573,557	13,401
	負債の部合計	737,665	729,703	7,962
純 資 産	基本金	25,608,118	25,200,473	407,645
	繰越収支差額	2,182,222	3,252,757	△ 1,070,535
	純資産の部合計	27,790,340	28,453,230	△ 662,890
負債及び純資産の部合計		28,528,005	29,182,932	△ 654,928

概 要

資産の部合計は、特定資産の約10億円の取崩により前年度末より8億1,659万円減の270億8,123万円となった。

負債の部については、前年度末に比べ7,962千円増加し、7億3,767万円になった。純資産の部は、繰越収支差額が10億7,053万円減ったため、277億9,034万円となった。